

トイレ更新・多言語案内板

外国人誘客へ環境整備

東京都奥多摩町は和式の公衆トイレの洋式化や観光案内の多言語化も推進する。都内でありながら自然豊かな地域性を生かして、名所の日原鍾乳洞などへの誘客につなげる。

おもてなしのシンボルとして「日本一きれいな観光用公衆トイレ」を目指した取り組みに着手。2017年度に清掃の統一基準を設け、清潔感を維持する。19年度をメドに40力所の公衆トイレを更新し、1力所新設する。

20年度までには観光案内板の多言語化やピクトグラ

日原鍾乳洞などPRへ

ム（絵文字）の活用を進める。昨秋からJR奥多摩駅前の観光案内所に英語が話せるスタッフを置く。今後、中国語や韓国語に対応できる職員の配置も検討する。

日原鍾乳洞を巡っては15年10月、全国9力所の関係者が集う「日本鍾乳洞サミット」を開催。スマートフォンを活用した洞内案内など、外国人観光客向けの取り組み強化で連携することを決めた。

奥多摩町は「国際」と名前のつく溪流釣り場が多い。横田基地の軍人らが利用していたことが由来とさ

れ、ハイキングや登山で訪れる外国人もいる。同町は「地域の魅力を発信したい」（観光産業課）と意気込む。

都は島しょ部の空港や船客待合所で案内板も多言語化する。4言語を併記して地域の観光情報を伝える。20力所を対象とし、18年度までに設置する。地元がつかえる地図などの多言語化も進みつつあり、案内板と併せて外国人向けの情報発信を強化する。

15年の訪日外国人客数は1973万人と14年より約5割増えた。東京でも都心部だけでなく、多摩や島しょ部の観光需要も高まっているとみられる。豊かな自然を楽しめる地域の魅力を伝える環境を整備する。